

混乱のレースを勝ち、ランキングも2位にアップ

RACE	2015 AUTOBACS SUPER GT Round6 『SUGO GT 300kmレース』
DATE	予選：2015年9月19日 決勝：2015年9月20日
CIRCUIT	スポーツランドSUGO（宮城県）
WEATHER	予選：晴れ/ドライ 決勝：晴れ/ドライ
RESULT	予選：2位 決勝：1位

今シーズンの終盤戦への足がかりとなるSUPER GT第6戦。戦いの舞台は杜の都・仙台にあるスポーツランドSUGO。第4、5戦で連続入賞し、ウェイトハンディも58kgを達成。うち50kgを燃料流量リストラクターの制限を受けて相殺。ウェイトは8kgまで軽減された。特徴あるSUGOのコースでまず予選2番手の好位置につけることとなったTEAM KUNIMITSUのNo.100 RAYBRIG NSX CONCEPT-GTは、セーフティカーで混乱する決勝レースで奮闘。果敢な攻めを貫きトップを奪取し、そのままチェッカーダフラッグを受け、チームとして2年ぶりとなる優勝を達成している。



今シーズンは開幕戦で2位表彰台に上がり、幸先のいいスタートを切ったかに思われたTEAMKUNIMITSU。だがその後は車両トラブルなどの不運が重なり、実力を発揮したくともできない戦いが続いていた。しかし、第4戦、第5戦と粘り強い戦いを重ね、連続で入賞を実現。その勢いを保ち、このSUGO戦へと挑むこととなった。

7月下旬にはこのサーキットでの公式テストを消化。土曜日の朝に行われた公式練習では、ここで得たクルマの進化とデータに基づいて準備されたクルマの仕上がり具合を確認。セッション終盤、GT500専有走行に入ると山本尚貴選手がニュータイヤで1分12秒295の好タイムをマーク。結果、これが総合トップタイムとなり、予選に向けていい流れを構築してセッションを終えている。

◎ 予選：

初秋とはいえ、思いのほか強い日差しが時折照りつけたSUGO。午後1時50分からのQ1では気温25度、路面温度32度という高めの数字が刻まれる。今回もまずNo.100 RAYBRIG NSX CONCEPT-GTのステアリングを山本選手が握ってコースイン。セッション終了まで残り5分を切った時点で1分11秒927をマーク、コースレコード更新をも果たし、暫定トップへと浮上する。このままアタック終了かと思われたがNo.24 GT-Rがこれを上回り、No.100 RAYBRIG NSX CONCEPT-GTは惜しくも2番手でQ1を終了した。



午後2時42分、Q2のアタックに挑んだ伊沢拓也選手。気温、路面温度ともにQ1時よりも若干下がる中でコースイン、タイミングを見計らってアタックラップに入った伊沢選手は1分11秒819のタイムをマーク、トップへと躍り出た。だがその直後、今度はNo.46 GT-Rがトップタイムを更新。結果、No.100 RAYBRIG NSX CONCEPT-GTは2位で予選を終えることに。残念ながらポールポジション獲得は果たせなかったが、今シーズンチームベストの位置を手に入れた。

トップとは僅差でのタイムアタックを終えた山本、伊沢両選手。Q1担当の山本選手は「結果だけを見ればポールポジションを獲得できる位置にいたので、（ポールを）獲れなかったのは残念だし、悔しい」としながらも、「今季ベストグリッドだし、前からスタートを切れるのはいいこと」と気持ちを切り替えた。また「アクシデントに巻き込まれることなく、キチンと走り切れば絶対優勝できると思う」と勝利を意識したコメントも飛び出している。また、今シーズン3度目となるQ2で攻めの走りを見せた伊沢選手。「走り始めからいい流れがあったので、アタックではポールポジションを狙っていました。でもトップと0.2秒差は正直悔しい」と2位獲得ながらも表情を緩めることはなく、「明日の決勝では絶対負けない気持ちで戦いたい」と奮闘を誓った。

◎決勝：

予選日同様、決勝日の朝もまずは薄曇りからスタート。時間の経過とともに再び青空と強い日差しがサーキットに戻り、東北地方における初秋とは思えないほどの天候の中、一戦を迎えることとなった。一方、大型連休ということもあり、サーキットには2万8500人もファンが足を運ぶなど、賑わいを見せた。

フリー走行は午前9時にスタート。気温22度、路面温度27度の下、これから午後の決勝に向けて気温、路面温度がどの程度推移していくのかを意識しつつ、クルマのセットアップの微調整や最終確認など、細々とした作業を繰り返す。結果、No.100 RAYBRIG NSX CONCEPT-GTは1分14秒297のタイムをマーク。ポジションこそ10番手と留まったが、決勝へのアプローチには何の迷いもなく、着々と準備を進めた。



迎えた決勝。午後2時、気温26度、路面温度38度とレースウィークを通して一番高い数値を示す中、81周に及ぶ熱戦の火蓋が切れて落とされた。まずNo.100 RAYBRIG NSX CONCEPT-GTのステアリングを握ったのは、山本選手。クリアスタートが切られ、早速前を行く46号車を追従する。だが、路面とタイヤの相性がいまひとつしっくりこないのか、思うようにペースが上がらない。そうこうする内に、GT300クラスの周回遅れが絡みはじめたことで、トップとの差が10秒近く開いてしまった。

さらに20周を過ぎてからは、後方のNo.64 NSX CONCEPT-GTが山本選手を猛追。23～24周目のメインストレートでイン側へとラインを変えて山本選手を逆転する。だがその直後、64号車は白煙を上げてペースダウン。目前のライバルにトラブルが発生したことで、山本選手は再び2番手で周回を重ねることになった。そして迎えた26周目、SUPER GTレースでよく語られるSUGOの“魔物”がついに目を覚ましてしまう。

荒れるレースに対し、“SUGOには魔物が棲む”と言われることが多いのだが、まさに今回も予期せぬ展開が訪れる。後続で激しい攻防を繰り返していた2台の車両がバックストレッチで接触。後方の1台がコントロールを失ってガードレールにヒット、大きくダメージを負った車両はコース上でストップする。これを機にレースはセーフティカーがコースイン、ペースを落としての周回が始まった。これより前、山本選手とトップとの差はおおよそ15秒。しかしSCランの間にトップとの差は一気に減り、充分トップ争いに持ち込める状況となる。一方で少し早めのタイミングながら、ピットレーンオープンと同時にピット作業を済ませるのが賢明と、チームそして伊沢選手がスタンバイ。後半戦の展開にすべてが委ねられることになった。

ご多分にもれず、ライバル勢も同様の動きを見せて31周を終えた車両が一斉にコースから戻ってくる。手狭なピットは瞬く間に大混乱。No.100 RAYBRIG NSX CONCEPT-GTも車両を斜めに止めて作業を始めることになったが無事に伊沢選手をコースへと送り出した。前を走る46号車との差はわずか。逆転を狙う伊沢選手は周りの状況を十分に把握した上で勝負に出ようと後方からプレッシャーをかけた。



そして迎えた36周目の最終コーナー、拳動の乱れた46号車を伊沢選手が仕留めにかかり、メインストレートで鮮やかに逆転！1コーナー飛び込みでイン側をキープ、トップで立ち上がっていく。その後は水を得た魚のごとく、後続をぐんぐんと引き離すことに成功。チェッカーまで残り10周の時点でおおよそ7秒強の差をつける力走を見せた。その後もNo.100 RAYBRIG NSX CONCEPT-GTは安定した速さをキープし、81周を走破。ついに待ちわびた優勝を果たすことになった。

TEAM KUNIMITSUとしては、2013年第1戦岡山以来となる勝利だが、山本、伊沢両選手のコンビによる優勝は初。チームがひとつになって掴んだ勝利に、高橋国光総監督の目にも涙が溢れていた。今回の好成績を受け、ドライバーズポイント、チームポイントともにランキング2位へとジャブアップを果たしたTEAM KUNIMITSU。残る2戦、着実に、そして粘りある攻めの走りを目指していく。

◎高橋国光総監督

ようやく山本と伊沢のふたりで優勝できました！待ちわびた勝利ですね。今シーズンは悔しい結果が続いていたので、やっと花が咲きました。僕自身もレースに長らく関わっていますが、そんな僕でもこのふたりはなにか特別な存在なんです。2010年、どちらかという成長途中の若いドライバーとしてふたりがチームに入り、山本なんかは負けては悔しがって泣いているようなドライバーでした。伊沢もここしばらく精神的にしんどい部分もあっただろうし、大変な時期を経て今年からまた日本でレースをすることになったわけですが、そのふたりが互いにライバル意識を持ちつつ素晴らしいコンビネーションを見せてくれるし、相互作用でどんどん成長しているのが伝わってきました。ただ、ふたりの力が同じ方向へ向くものだから、いい方向へも悪い方向へも一気に向ってしまう。それが心配でもあったのですが、今日の勝利でどんだんいい方向へと進んでいってくれると信じています。



今回の勝利によって彼らがドライバーとして、またひとりの人間として大きく成長してくれたと思います。またそのふたりをいいクルマ、いいタイヤがしっかりと支えてくれました。もちろん周りのスタッフもそうです。完璧なレースはそう滅多にないことです。こんなうれしい日はないですね。



山本尚貴選手

スタート前、僕たちがチョイスしたタイヤがレースでは厳しいかも、という不安がありました。予想どおりペースを上げられなくて優勝するにはちょっと厳しいなという思いがありました。そこにセーフティカーが入ったことにより、差も縮まったしレースをリセットすることができました。

そこで僕たちはタイヤを替えたのですが、そのタイヤがレース、コースのコンディションにドンピシャでした。グリップも高かったようで、伊沢選手がしっかりと走ってくれたのが何よりでした。僕が走行中は、64号車とのバトルになり、一瞬抜かれたのですが向こうが前に出た途端に

タイヤがスローパンクチャーしたようで、レースってやっぱり運がついてくるんだなとも思いました。今回はなによりもチームへ優勝をもたらすことができ本当にうれしい。伊沢選手と一緒に優勝できて、チームへは感謝の気持ちでいっぱいです。苦しいときにがんばったからこそこの勝利だと思います。これでタイトルが狙える位置にきたのでさらにがんばっていきたいですね。

◎伊沢拓也選手

レース前半、山本選手のスティントではタイヤも完璧ではなかったんですが、なんとかくらいついて2位で帰ってきてくれたのがよかった。僕のスティントになって、異なるタイヤを選択したんですが、それがホントに完璧で、クルマともどもとてもよかったんです。7月下旬には、ここで行われた公式テストで一杯走ってデータを取りましたが、手応えあるものだったので、今日のこの勝利のための流れがあったのかなとも思います。



これまで（2010年から3年間、TEAM KUNIMITSUとして）山本選手とのコンビで勝てないことがずっとあったぶん、今日の優勝はうれしいです。また、高橋総監督の涙を見て、本当に良かったなと思いました。

第7戦は10月31～11月1日に大分県・オートポリスにて開催されます。

引き続き、皆様のご支援・ご声援をお願いいたします。